標準語の成立など

※「表」：表記に関係

時代			内容
17世紀初め～半ば			京ことばが正しい、標準語だという意識
18世紀前半			御家人詞などが成立
18世紀前半～後半			各地で方言辞書刊行　対訳は京言葉から江戸の言葉へ
江戸後期～幕末			上層階級の江戸ことばが共通語化
1866	慶応2	表	前島密「漢字御廃止之議」建白　文語体の廃止も提案
1867			ヘボン『和英語林集成』初版
1871			森有礼　日本語廃止・英語公用語論を主張
1872	明治5		学制発布
		表	契沖仮名使いを「歴史的仮名遣い」として正書法に採用
			『和英語林集成』第二版：京ことばが標準的な最も権威あるものだが、
			江戸ことばは教養のある者なら全国で通じる
1873		表	福沢諭吉「文字之数」漢字を2～3000字に制限することを提案
	明治10年代	表	漢字廃止論が活発化
	明治16	表	表音式仮名文字運動団体がまとまって「かなのくわい」設立
			会長は有栖川宮
	明治17	表	羅馬字会設立　田中館愛橘　日本式ローマ字を提唱
1886	明治19		『和英語林集成』第三版：江戸言葉が京言葉に対し優位に立った
		表	ヘボン式(標準式)ローマ字を同辞書の見出しに使用
1887	明治20～22		二葉亭四迷　我が国初の言文一致体の小説『浮雲』
1890	明治23		岡倉由三郎　standard languageの訳語として「標準語」を用いる
			以後、標準語待望論が盛んに
1894	明治27		日清戦争勃発　上田万年「国語と国家と」(講演)　「国語」の呼称を提唱
			日本語は「日本の国体を維持」する「日本人の精神的血液」
1895	明治28		上田万年「標準語に就きて」
1899			「北海道旧土人保護法」制定　アイヌ居住地に小学校設置
			→1997年「アイヌ文化振興法」成立により廃止
			→2019年の新法成立により97年の振興法廃止
1900	明治33		小学校令施行規則、改正　　読書・作文・習字を「国語科」として統合
		表	仮名の字母統一(選に漏れたものは「変体仮名」)
			小学校の教科書のみ表音式仮名遣いを採用
			→明治41、世論の反対により歴史的仮名遣いに戻す
1902	明治35		文部省の国語調査委員会設立、言文一致・漢字廃止の方針を示す
			→明治39「口語法調査報告書」、
			明治40「口語法」整理、『口語法分布図』刊行
1904	明治37		文部省著作『尋常小学読本』　国定教科書第一号
			「国語の標準を知らしめ、其統一を図る」
			主として東京中流社会のことばを用い、全面的に口語体を採用

時代		内容
1916	大正5	国語調査委員会　『口語法』刊行
1917	大正6	『口語法別記』
1925	大正14	ラジオ放送開始　→特に東北・沖縄などで「方言撲滅運動」
1946		11月、口語体・旧字体・歴史的仮名遣いによる「日本国憲法」公布
	表	「当用漢字表」告示　1850字
		→81年「常用漢字表」1945字　→2010年、2136字に
	表	「現代かなづかい」
		→86年「現代仮名遣い」
1963	表	国語審議会が漢字仮名交じりを表記の正則とする基本方針を発表
1988		国立国語研究所所長・野元菊雄「簡約日本語」提唱
2000		1月、21世紀日本の構想懇談会（小渕首相の私的諮問機関）が「英語第2公用語化」を最終答申
2011		4月、小学校における英語必修化
2019		4月「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」成立 アイヌ民族を先住民族と規定したものの権利の保障はなし